

「水木しげる記念館」のあり方に関する
最終提言書

令和3年3月

水木しげる記念館あり方検討委員会

本委員会は、令和元年9月から全6回の委員会を開催し、「水木しげる記念館」のあり方について、様々な観点から、検討を重ねてきました。

令和2年2月に取りまとめた『提言書』において、「水木しげる記念館」の建て替えは絶対必要で、“解体新築”もしくは“移転新築”のいずれかと提言しました。

今回、「水木しげる記念館」の具体的な建て替え場所などの検討を行った結果、「水木しげる記念館」の建設場所は、“現在地”が最も妥当であることを全会一致で確認しました。理由は次のとおりです。

- (1) 水木しげるロードのシンボルとして同ロード沿いに立地することが最善であること。
- (2) “現在地”は境港駅から歩いて適度な距離（800m）にあること。
- (3) 将来、水木しげるロードが東西南北に延伸または拡張される場合、“現在地”は水木しげるロードの中心的な場所となり、妖怪の町づくりの拠点となること。

また、現在地で再整備する際は、周辺の施設等を活用し、休館せずに営業を継続することが理想と考えますが、代替施設等の確保ができないときは、整備に係る工期の短縮を図るなど、可能な限り休館期間が短くなるよう、創意工夫を図っていただきたい。

最後に、再整備にあたっては、社会情勢の変化や境港市が置かれている財政状況なども念頭に、水木しげるロードなどの既存資源を有効に活用した文化観光拠点、地域づくりの創出に向けて、施設の規模並びに機能強化の検討、クラウドファンディングによる財源調達や民間資金を活用したPFI等による整備手法の検討など、総合的に判断されるよう付言し、最終提言とします。

令和3年3月5日

水木しげる記念館あり方検討委員会

委員長 澤田 廉路

参考資料

○検討の経緯

回次	開催日	出席委員	協議事項
第5回	令和2年11月26日(木)	8人	・建設候補地 ・整備手法
第6回	令和3年2月9日(火)	10人	・最終提言書(案)

○水木しげる記念館あり方検討委員会 委員名簿

役職	氏名	所属	備考
委員長	澤田 廉路	一般社団法人 鳥取県建築士会	専務理事
副委員長	足立 収平	株式会社 平設計	代表取締役
委員	古橋 剛	境港市観光協会	事務局長
〃	池田 進	水木しげるロード振興会	副会長
〃	赤石 周平	〃	理事
〃	原田 幸代	〃	理事
〃	藤田 勝	水木しげるロード街なみ 環境整備協定運営協議会	
〃	庄司 亨	境港商工会議所	事務局長
〃	渡邊 冬樹	一般社団法人 境港青年会議所	第55代理事長
〃	森田 美穂	鳥取県 交流人口拡大本部 観光交流局 まんが王国官房	官房長